

地域再生計画 事後評価シート

「豊かな自然を活かした、低炭素なまちづくり」 計画

平成 29 年 11 月

地域再生計画（地方創生整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	長野県	事業実施主体	長野県、飯田市	地域再生計画名	「豊かな自然を活かした、低炭素なまちづくり」計画
計画期間	平成22年度～平成26年度	評価責任者	飯田市総合政策部長		

	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績			
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	森林整備面積を90haから110haへ向上	90ha	H21	H25	64ha	110ha	H26	111ha	○	計画通り森林整備が進み、最終年度には目標を達成することができた。
	指標 2	間伐実施面積を330haから365haへ向上	330ha	H21	H25	315ha	365ha	H26	369ha	○	計画区域内の間伐が実施され、最終年度には目標を達成することができた。
	指標 3	計画区間内の渋滞箇所2か所の解消	2か所	H21	H25	1か所	0か所	H26	0箇所	○	計画通り2か所の渋滞が解消され、目標を達成することができた。
	指標 4	計画区間内の歩道整備率15%を100%に解消	15.0%	H21	H25	72.0%	100.0%	H26	100.0%	○	計画通り計画区間内の歩道整備率は100%となり、目標を達成することができた。
	指標 5	体験プログラム利用者数4万5千人から5万人へ向上	45,000	H21	H25	42,600	50,000	H26	35,600	△	全国的に「体験学習」の位置づけが高まり、地域振興策として体験教育旅行受入れを進める地域が増えてきたことから、目標値達成にはいたらなかった。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	水源の確保	710万t/年	H21			710万t/年	H26	710万t/年	○	飯田市の重要な水源である松川上流を保全することにより、松川ダム取水量の安定につながることから、一定の水源確保を保持できた。
	指標 2										
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価					
			計画	中間年度（H25）	最終実績						
特別措置を適用して行う事業	市道事業		200m	140m	200m	計画どおり整備が完了し目標を達成した。					
	林道事業		400m	334	334m	計画どおり事業を実施し、整備量とほぼ同水準に達成した。					
その他の事業	体験と交流の森づくり事業		育樹祭の開催、緑の少年団の活動、松川入水源の間伐体験事業、民有林直轄治山事業			民間団体による間伐体験作業をそれぞれ年1回実施した。育樹祭については平成22年度と平成26年度に市民による間伐作業体験を実施した。					
	森林ふれあい事業『松川の清流と自然を訪ねて』		松川水源の自然散策と森林の治山・治水事業の見学会			松川源流の自然探訪イベント『松川の清流と自然を訪ねて』を毎年1回開催した。					
計画外で独自に実施した事業											
④評価方法	関係する行政機関において、達成状況の評価、改善すべき事項の検討を行った。										
⑤事後評価の公表方法	飯田市企画課のホームページに掲載										
⑥計画全体の総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本地域再生計画に基づく市道の改良により、慢性化していた中心市街地における通勤車両の交通混雑が解消され、通勤・通学等の歩行者の安全は歩道整備により確保された。 ・森林と親しむ意識の高揚を目指して取り組んでいる「育樹祭」や「松川の清流と自然を訪ねて」等のイベントは、地域住民の主体的な関わりにより、多くの子どもたちの参加が得られ、森林の大切さや自然と触れ合う体験ができている。さらに森林保全の重要性を学ぶ機会の提供を推進し、森林保全に対する住民の意識を高めていきたい。 										
⑦今後の方針等	<ul style="list-style-type: none"> ・農業を利用した体験プログラムは、地域に存在する、ひと、もの、しごとの資源を総動員してその魅力を発信できる新たな農業の形としてこの地域に定着しつつある。ただし、体験教育旅行の全国的な広がりや民泊受け入れ農家数の頭打ちを背景に、ここ数年体験プログラムの利用者数の伸び悩みがみられる。引き続きグリーンツーリズムを中山間地域における主要な産業として位置付け、若手農業者の育成や都会の企業向けの新たな体験プログラムの開発等を進めるとともに、将来的な三遠南信自動車道の全線開通を見据えて周辺市道の整備や交通網としての林道整備に力を入れていきたい。 ・森林を活用し木質バイオマスエネルギーを利用することで、新たな雇用創出と地域経済を活性化し新規就農者や森林労働者の確保を進めたい。また、木質バイオマス資源に関しては現状の木質ペレット燃料の需要創出を継続するとともに、林業関係者と協力し、森林資源の循環利用を理念として未利用材の有効活用の検討をさらに進めていく必要がある。 										

道整備交付金による施設整備の整備箇所

